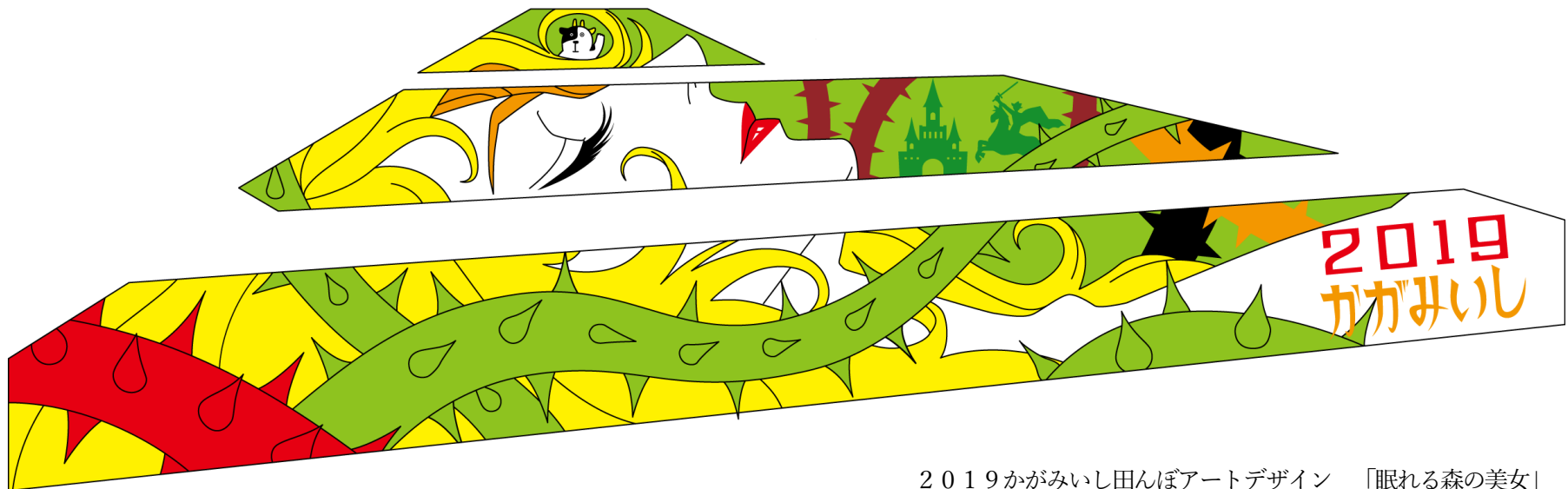


平成30年度 鏡石町教育行政に関する点検評価報告書



2019かがみいし田んぼアートデザイン 「眠れる森の美女」

鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)の内容について

(1)事務事業の評価者

各グループで点検評価し、その後、教育課としての自己評価を行います。

(2)事業の目的・内容

事業の目的には何のために当該事業を行っているか、事業の内容は目的のためにどのようなことを行っているのか記入してあります。

(3)実績成果・事業費

- ・実績成果 点検評価対象年度の活動の結果・実績、事業量等が記入されています。
- ・事業費 前年度の決算額及び点検評価対象年度の決算見込額が記入されています。

(4)事業の評価

- ①必要性 現在の町民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうかを評価します。
評価点数としては、増加4点、横ばい3点、減少2点、かなり減少1点として評価します。
- ②有効性 施策や運営方針、町で策定した総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているかを評価します。
評価点数としては、十分寄与4点、概ね寄与3点、あまり寄与していない2点、寄与していない1点として評価します。
- ③効率性 事業のコストがかかりすぎていないか、最小の経費で最大の効果を発揮しているかなど、経済性の面から評価します。また、事務作業に無駄がないか、更なる効率化が図れないか評価します。
評価点数としては、十分できている4点、できている3点、あまりできていない2点、できていない1点として評価します。
- ④達成度 事務・事業の達成状況を評価します。
評価点数としては、十分できている4点、できている3点、あまりできていない2点、できていない1点として評価します。

(5)総合評価

各評価項目の評価点数を基に、総合評価のランク付けを行います。

①総合評価のランク

ランク	評価点数	内 容
A	16～14	優れた取組が多く、十分成果が上がっている。
B	13～11	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。
C	10～ 8	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多い。
D	7～	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要。

②判定説明及び考察

各評価項目の評価結果の総括、今後の課題や抱えている問題点などについて、事業全体の視点から捉えた総合的なコメントが記入されています。

(6)事業の方向性

上記の評価結果を踏まえて、今後どのように事業を進めるか選択しています。

(7)教育行政点検評価委員の意見

教育課が評価した結果について「鏡石町教育行政点検評価委員会」にて事務事業評価表を再度確認してもらうことにより、自己評価では気づかなかった点が確認でき、評価の客観性や精度が高まります。

なお、必要があれば事務事業評価表を補正します。

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見																
				区分	単位	H29年度実績	H30年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察																		
1	適応指導教室運営事業	不登校状態にある児童生徒に対し、カウンセリングや小集団活動を通し、自主性や社会性を高め学校復帰を支援する「若草教室」の運営充実に努める。	・名称 「若草教室」 ・場所 町保健センター内 ・開設 月曜日から金曜日 9:00～12:00 (変更有り) ・内容 自主学习・課題学習(自分にあった教科学習)、体験的学習、軽運動やゲーム、その他(清掃、反省等)	実績成果	適応指導教室 小学生入級者	人	0	0	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	不登校となった児童生徒の中でも、若草教室には通級でき、かつ、月数回は学校へも行けるようになった生徒がいる。 また、若草教室を利用しないで、学校へ登校できるようになった生徒もみられた。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・不登校状態の児童生徒の学校復帰のためには、学校、家庭、教育委員会等の関係機関の連携が必要。 ・適応指導教室にも通級できない生徒への対応が課題。															
				実績成果	適応指導教室 中学生入級者	人	3	5																								
				3月31日現在(年度末)																												
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円			その他	千円			一般	千円	2,520	2,671	合計	千円	2,520
2	理科振興事業	小学生の理科教育は、創造性の伸長や自主性が求められているが、現在は、理科離れ進んでいることから、ふくしま森の科学体験センター(ムシテックワールド)で理科教室を開催し、理科に対する興味・関心を高める。	1 ムシテックワールドにおいて、一・小・二小の3～6年生を対象に理科教室を開催 ・日時及び対象 ①11月14日 9:00～11:30 小学3年生対象 ②11月21日 9:00～11:30 小学4年生対象 ③11月27日 9:00～11:30 小学5年生対象 ④11月30日 9:00～11:30 小学6年生対象	実績成果	理科教室参加者	人	501	473	4 (4)	4 (3)	3 (3)	3 (3)	14 (13)	A (B)	新学習指導要領の中で、体験型の理科実験や観察は大変重要視されている。こうしたことから、数多くの実験設備が整っている「ムシテックワールド」を利用して理科教室を開催することで、児童は学校では得られない貴重な体験を積むことができている。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・学校では実施できない実験・体験は重要。 ・ムシテックワールドの活用だけでなく、学校でもできる実験や専門講師の活用も検討。															
				実績成果	内容(テーマ) 放射線を調べよう、電気を流そう、月の満ち欠け早見盤、電気ブランコ、マジックマグネット、サイエンスショー 等																											
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円		その他	千円			一般	千円	628	635	合計	千円	628	635
3	学力向上支援事業	児童生徒の基礎学力向上に取り組むため全国一斉実施の「全国学力・学習状況調査」及び町単独による「総合学力調査」を実施して、結果分析を専門業者に委託する。 また、教職員のレベルアップ事業として、教職員の研修会等を実施し、資質の向上を図る。	1 全国学力・学習状況調査 ・対象 小6、中3全員 ・内容 教科調査(国語、算数・数学、理科)、生活習慣等調査 2 総合学力調査 ・対象 小1～6、中1～3全員 ・内容 児童生徒の学力等調査 ・教科 小学校は国語、算数。中学校は国語、数学、社会、理科、英語	実績成果	全国学力・学習状況調査	人	242	242	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から実施される新学習指導要領による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、町の児童生徒の学力の実態・課題を調査・分析し、学校での指導内容・方法の工夫改善をするためには必要な事業である。 また、学力向上には教職員の資質向上が不可欠であることから町独自でも質の高い研修を行っていく必要がある。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・児童生徒の学力の客観的な把握は必要。 ・学力調査の結果をどのように生かすかが大事。 ・教職員のレベルアップも必要。															
				実績成果	総合学力調査	人	990	1,088																								
				実績成果	教職員レベルアップ研修	回	1	1																								
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円		その他	千円			一般	千円	1,005	1,470	合計	千円	1,005	1,470

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見				
				区分	単位	H29年度実績	H30年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察						
4	語学指導外国青年招致事業	中学生の英語の語学力向上を目的に語学指導助手を1名招致し、鏡石中学校へ派遣するとともに、週1回隔週ごと保育所、幼稚園で幼児英語教育を実施する。 また、児童の国際感覚を養うため小学校に外国人講師を派遣し、日常生活の中から外国語に親しむ機会を創設する。	(中学校) 外国語授業・会話の補助、外国語能力コンテストへの協力、外国語教員に対する現職教育への補助等 (保育所・幼稚園) 小学校外国語活動へ向けた幼児向けの英語遊び等。隔週1回づつ鏡石保育所と鏡石幼稚園を交互に訪問。 (一小・二小) 小学校等における英語会話の補助、外国語教育用の教材作成の補助、小学校等における国際理解関係事業の補助、特別活動等への協力、教員研修活動等の補助等 一小 週3.5日勤務 二小 週1.5日勤務	実績成果	保育所 外国語活動	回	21	21	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	小学校学習指導要領では、令和2年度より、3・4年生で外国語活動、5・6年生で英語科の授業が完全実施される。また、中学校学習指導要領では、主体的に英語でコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指している。 今後、小・中9年間の系統性を目指した英語力の一層の充実を図るためにも、効果的なALTの活用と教師の授業力向上を図っていく必要がある。	重点化 (継続)	・事業の評価は重点化。 ・語学力(英語力)の向上は重要である。 ・外国人講師とのふれあいは語学力向上に必要。 ・外国人講師だけでなく教師の積極的な関わりが必要。			
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円	
5	教育支援事業	特色ある学校づくりを推進するため、授業内容により外部の専門的知識や技術を持つ講師を活用し、担任とチームティーチング方式で授業を展開し、児童生徒の興味や関心を喚起する授業の展開を支援する。	・外部講師による支援事業 主な内容 (一小) 合唱指導、合奏指導 (二小) 水泳指導 (中学) 保健指導 (幼稚園) よさこい指導、音楽指導、水泳指導	実績成果	一小支援事業	回	13	17	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	特色ある学校づくりのため、各学校で専門的知識や技術を持つ外部講師を招いて各種授業を実施した。 今後は、「学ぶ楽しさ」を味わわせ子どもたちの学習意欲を育てるため、外部講師活用に一層の工夫が必要である。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・専門的知識や技術を持つ講師の活用は有効。 ・子供達の学習意欲向上につながる授業の検討。			
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円	
6	学校図書館整備事業	小学校・中学校の児童生徒用図書と図書室の整備充実を図る。	・平成30年度整備 (一小)童話・図鑑等190冊 (二小)童話・図鑑等127冊 (中学)文学・専門書等167冊 (幼稚園)絵本等 67冊 ・町図書館の活用 移動図書館の利用実績 一小1,549冊、二小397冊、中学校32冊	実績成果	一 小 図 書	千円	309	301	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	読書は、子どもたちの創造性を育むとともに、知的活動やコミュニケーションの基盤となる言語に関する能力の育成を図るために非常に重要であることから、今後も計画的に整備していく必要がある。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・学校等における読書環境の更なる充実が必要。 ・子供達が進んで本を読むための方策が課題。			
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円	

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見				
				区分	単位	H29年度実績	H30年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察						
7	情報化教育推進事業	パソコン教室は児童生徒が一人一台利用できる環境になり、教職員にも一人一台配備されている。また、インターネットへ接続できるようになったことからその有効活用を図る。さらに、H21年度整備の学校ICTを活用した授業の展開を図る。	・一小 パソコン端末82台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・二小 パソコン端末58台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・中学校 パソコン端末80台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・電子黒板3台(小中学校各1台)、デジタルテレビ58台(一小28台、二小11台、中学校16台、幼稚園2台、公民館1台)の整備(H21年度)	実績成果	一小平パソコン授業等	時数	788	1,024	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	情報化社会の中で、児童生徒や職員に対するパソコンの環境は整っており、学校のホームページも各校で整備している。 なお、30年度は、小中学校のパソコン機種の更新及び小学校のデジタル教材ソフトの更新を実施しており、引き続き情報化教育の環境整備に努める必要がある。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・IT活用による他校との交流等を期待。 ・タブレット導入の検討 ・ネット社会におけるマナーの指導が課題。			
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円	
8	通学バス乗車券購入補助事業	第二小学校通学バス乗車券購入費として、旧二小学区1～3年生へ補助する。(通学バス乗車券購入補助金交付要綱)	・旧二小学区1～3年生の児童のうち必要とする児童については、保護者に通学バス定期券を購入いただき、実績に基づいてバス乗車券購入費を学校に補助、学校から実績額を保護者へ交付している。(H22年度から通学バス定期券の学校による一括購入から、保護者購入による実績額交付方法へ変更)	実績成果	通学バス定期券購入者数	人	25	21	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	12 (12)	B (B)	平成22年度から通学バス定期券の学校による一括購入から、保護者自ら購入する方法へ変更したため、必要な児童のみの申請になったことから購入者数・補助金額とも減少している。 今後は他地区のバス通学児童との公平性も考慮しながら、補助事業継続を検討する必要がある。	改善 (改善)	・事業の評価は改善。 ・一小と二小の公平性を考慮して、事業の継続性の再検討が必要。			
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円	

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見																	
				区分	単位	H29年度実績	H30年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察																			
9	特別支援教育事業	心身に障がいのある児童生徒を支援するため小学校・中学校へ特別支援教育支援員を配置する。	・一小 平成20年10月から2名雇用 平成21年4月から合計3名雇用 平成24年1月から合計4名雇用 ・二小 平成19年度から1名雇用 平成24年度から合計2名雇用 平成26年度から合計3名雇用 ・中学校 平成23年度から1名雇用 ・鏡石幼稚園 平成30年度 3名雇用	実績成果	一 小 特別支援教育支援員	人	4	4	4 (4)	4 (3)	3 (3)	3 (3)	14 (13)	A (B)	小学校・中学校では、発達障がい等の児童生徒に対し、担任1人での対応は厳しい状況であるため、特別支援教育支援員を配置し、授業や生活面の支援を行うとともに、資質の向上を図るため研修会を実施している。 なお、小学校では支援が必要な児童が増加していることから、特別支援員の増員も課題となっている。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・特別支援員の増加や学校枠にとられない流動的な配置を検討。																
					事業費	二 小 特別支援教育支援員	人	3										3	中 学 校 特 別 支 援 教 育 支 援 員	人	1	1	幼 稚 園 特 別 支 援 教 育 支 援 員	人		3	国 県 支 出 金	千 円			起 債	千 円	
10	育英資金貸付事業	本町に住所を有する学生に対して、経済的理由により修学困難と認められる者に育英資金を貸与し、教育の機会均等を図る。	・貸付条件 町内に引き続き2年以上住所があり、かつ、学術優秀、品行方正、身体強健の者で、経済的理由により修学困難と認められる者。 ・貸与額 一般貸付1人月1万5千円から5万円、入学準備金30万円～60万円以内 ※平成24年度より条例改正 ・貸与額 1人月5万円以内	実績成果	貸付者(大学)	人	1	0	4 (4)	4 (3)	3 (3)	2 (3)	13 (13)	B (B)	今日の経済状況から、町の制度より有利な国等の奨学金の方へと移行していると思われる。 しかし、経済的に修学困難な進学者への教育の機会均等を図るうえからも、貸付条件の一部見直し等について、調査・検討していく必要がある。	改善 (継続)	・事業の評価は改善。 ・利用しやすい制度の見直しが必要。 ・返済免除や給付型の検討。																
					事業費	貸付者(短大)	人	0										0	貸付者(専門学校)	人	0	0	貸付者(高校)	人	0	0	※新規貸付者のみ	国 県 支 出 金	千 円			起 債	千 円

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見										
				区分	単位	H29年度実績	H30年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察												
11	家庭教育学級事業	家庭教育は、人間形成の基礎を作る上でできわめて重要であることから、家庭における父母の役割についての学習や親同士の交流の機会を提供し、家庭の教育力の向上と活性化を図るため開設する。	委託機関及び教育委員会が選定した家庭教育関係講師及び指導者により、家庭の教育向上に関する講演等を実施。 ・おやこふれあいコンサート(鏡石保育所) ・大人への応援講座(教育委員会、就学時健診に併せ実施) ・講演会「極真カラテ演武並びに講演」(第一小学校教養委員会)	実績成果	事業数	件	4	3	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	本事業は家庭教育力の向上は重要な課題であると位置づけ実施した。 家庭教育力の向上には必要な事業であるため今後も継続して実施する必要がある。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・家庭教育は重要。 ・保護者の交流機会の確保、問題解決のきっかけづくりのため内容を工夫。									
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円		その他	千円		一般	千円	70
12	青少年健全育成事業	広く町民の総意を結集し、国・県及び町の施策に呼応して、青少年の健全な育成を図るため実施する。	青少年がその誇りと責任についての自覚を高めるための諸活動、健全な青少年活動を助長、奨励するための諸活動、青少年の非行及び事故防止のための諸活動等を実施する。 ・TPT活動支援(委嘱26名) ・少年の主張鏡石町大会 ・青少年育成に係る標語看板作成 ・スポーツクラブ交流会「ボウリング大会」	実績成果	少年の主張鏡石大会発表者数	人	14	15	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	小中学生が自ら非行防止活動をするTPTの活動は、須賀川警察署との連携を図り推進しており、毎年内容の充実・参加児童の増加が見られ、一定の成果が見られる。 また、町民の総意を結集し「青少年の健全育成」を図るという点においては、関係諸団体との連携のもと事業を実施することができた。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・青少年の健全育成のため関係団体、町民と一体になり事業をすすめるべき。									
				事業費	TPT事業回数	回	6	6										TPT参加率	%	82.3	91.2	国県支出金	千円			起債
13	学校支援地域本部事業	地域の人々が個々の特性を活かして教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用の機会拡充及び地域教育力・地域コミュニティの再生を図り、地域が学校を支援する組織体制の構築を図る。	学校支援事業の効果的かつ円滑な取組を推進するために学校支援地域本部「学校応援団」を設置し事業を実施。 ・地域コーディネーター2名配置 ・学校の要請にもとづく支援 ・ボランティアの募集、研修会の実施 ・事業実施に係る普及啓発・広報活動	実績成果	支援回数	回	123	143	4 (4)	4 (4)	3 (4)	4 (3)	15 (15)	A (A)	コーディネーターを中心に積極的に事業を推進しており、事業をとおして学校と地域の交流や地域住民の生きがいづくりなどの成果を得ている。 平成20年度から継続しており、学校の理解、信頼が深まり、支援回数も依然高いまま推移している。今後も体制の充実や協力団体との連携強化を図りながら、一層の事業推進と持続可能なシステムの構築を図りたい。また、保護者、学校のさらなる関与も期待したい。	重点化 (重点化)	・事業の評価は重点化。 ・成果が見られる事業。 ・依頼のしやすさ、ボランティアの確保などの体制を整えながら事業を推進。 ・文化財や伝統芸能を子どもたちに継承する機会をつくっていくべき。									
				事業費	ボランティア数(延べ)	人	580	536										ボランティア登録数	人	87	89	国県支出金	千円	1,247	1,237	起債

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	H29年度実績	H30年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
14	花いっぱい運動事業	各種団体との協力提携により、鏡石町内の各所に花を植え、心豊かな潤いのある町づくりと連帯感あふれる地域社会の形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を設置し、行政区・学校及び協力団体の協力を得て、町内各所で花の一斉定植を行い花の管理を行う。(マリーゴールド、ペゴニア、サルビア・ブルーサルビア) ・表彰(個人、各行政区) ・花咲かボランティアの助成 	実績成果	一斉定植事業	千円	747	776	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	この運動はコミュニティの形成などにおいて一定の成果は得られている。 ガーデニングコンクールは応募がなかったため廃止し、植栽に力をいれることとした。 植栽はプランターから花壇を中心とした植栽をして頂くよう行政区に呼びかけることとする。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の評価は継続 ・環境美化、地域住民の交流の場として有効。 ・花の種類、定植場所を工夫。
					苗数	本	22,040	22,380									
15	生涯学習の振興(いきいき学級)	学級生相互の話合いや、種々の学習・講座などをおこなって、健康を保ち生活を楽しみ、変貌する生活環境に即して常に新しい知識・技術を習得し、自ら生きがいを見い出すことを目的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。 ・年7回のプログラムにより、各種学習を行う。「移動学習(福島方面)」、語り部による「地元の昔話」、「ポッチャ」、「映画鑑賞」、「健康教室」、お楽しみ講座「ミュージックエクササイズ」、公立病院「老嚙、嚙下体操」 	実績成果	学級生数	人	75	76	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	高齢者が生きがいを見つけ、精神的な若さと健康が保持できるような事業として継続していく必要がある。 しかし、受講者の中でも高齢化が進み年齢による温度差などを踏まえ、学習計画の編成においては発表会をお楽しみ講座に変更するなど実情に沿った運営を行った。 引き続き受講生の送迎等も工夫しながら進める。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の評価は継続。 ・高齢者の生きがいづくり、交流、学習の場。 ・多くの人が受講できるよう交通手段を検討。
					出席率	%	78.0	73.0									
16	生涯学習の振興(ジョイフルライフ講座)	最も向学心旺盛な年代の女性を対象に体験学習や社会参加を通して、生活の向上や自己研鑽を図り、豊かな人間性を養う。女性としての資質や能力を高め、明るく健全な家庭づくりや地域づくりに役立つことを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。 ・年6回のプログラムにより、各種学習を行う。「金融講座」、「ハーバリウム教室」、「ポーセラーツ」、「移動学習」、「フラワーアレンジメント」、「料理教室(健康的な食生活)」 	実績成果	受講者数	人	20	20	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	人気の講座であり受講希望者も多いことから、今後も魅力あるプログラムづくりを行い、より充実した事業を展開していく必要がある。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の評価は継続。 ・人材育成等につながる内容を目指す。 ・多くの方に受講の機会を提供できるよう工夫。
					出席率	%	100.0	80.0									
				事業費	国県支出金	千円											
					起債	千円											
				事業費	その他	千円	292	343									
					一般	千円	474	387									
				事業費	合計	千円	766	730									
					合計	千円	264	273									

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見				
				区分	単位	H29年度実績	H30年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察						
17	生涯学習の振興(大人の講座「男性専科」)	日頃社会活動に消極的になりがちな男性に対して、種々の学習などの場を提供し、精神的にも肉体的に個明るく生き生きとした心身共に健康で民主的な社会の一員となることを目指す。	・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。 ・年6回のプログラムにより、各種学習を行う。 、「トレッキング&バーベキュー」、「魚の捌き方」移動学習、「フラワーアレンジメント」、「ピザ作り教室」	実績成果	受講者数	人	19	14	4 (4)	3 (4)	3 (3)	3 (3)	13 (14)	B (A)	平成25年度から男性向けの講座として開設。全6回開催。普段、公民館講座への参加が少ない男性を対象に自発的・自主的な学習機会を提供する。 申込後に、受講生の意見を取り入れながら、事業を行った。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・男性参加の数少ない講座。 ・自主的、自発的に学習する機会を提供。 ・退職後の生きがいづくりや社会参加を促すために必要。			
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円	
18	社会教育推進事業(青少年教室「アドベンチャークラブ」)	子どもたちの社会性を養うことを目的に集団生活をとおりて様々な体験により、子どもたちの興味、関心の幅を広げるとともに多くの自然に触れることにより環境に対する意識の向上を図るため実施する。	・年8回のプログラムにより、体験活動を行う。「ミニ運動会」、「なたね油搾り・ろうそく作り」、「尾瀬沼探勝」、「秋の自然観察(桧原湖畔)」、「カラーリング」、「スキー教室・冬の自然観察(猪苗代町)」、「お楽しみ講座(異文化模擬体験)」	実績成果	受講者数	人	47	40	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	青少年の社会教育の場であり、集団生活をとおりて様々な体験により子どもたちの興味関心の幅を広げることにより役立った。 また、活動に対する満足度も重要だが、あいさつ等の基本的なマナーを身につけられるような講座運営が必要である。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・学校や家庭で体験できない活動。 ・体験で学習することは重要。 ・参加者を確保するため内容を検討。			
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円	
19	社会教育推進事業(まちづくり講座)	個性あるまちづくりの実現に向け、地域のリーダー的な人材を育成することを目的に実施する。	・ガーデニング講座(花画美塾)年10回のプログラムで、視察研修や実技をとおりてガーデニングによるまちづくりを学んだ。 アジサイの挿し木を行いオランダ祭りで苗木を配付するなど活動のPRも行った。	実績成果	ガーデニング講座受講者数	人	10	9	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	参加者が積極的に活動しており、目標を持って参加して頂いている。 最終的な活動の成果として、図書館駐車場の花壇を整備し、次年度に繋げていくこととした。 参加者が地域のリーダーになることを期待したい。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・参加者が主体的に活動している。 ・中長期的に人材づくりとなるよう内容を工夫すること。			
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円	

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見											
				区分	単位	H29年度実績	H30年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察													
20	図書館事業	社会教育の中心的施設であるという認識のもと、幼児から高齢者までを対象にした自主事業を行い、地域住民に親しまれ、利用しやすい図書館の運営を図る。	図書等の貸出(町立小・中学校への移動図書館、町立幼稚園への団体貸出を含む)。小学校でのおはなし会の開催。図書、視聴覚資料等の計画的購入、読み聞かせ会、子ども映画会、造形教室、人形劇鑑賞会など、図書館施設維持管理事業	実績成果	入館者数	人	86,236	91,589	4	4	3	3	14	A	(B)	図書館の利用状況は前年同様の数値が見込まれる。 利用者数の増ばかりでなく、質の向上を図るため事業展開を図りながら町民に親しまれ利用しやすい図書館運営を図るため、蔵書や視聴覚資料の購入の工夫する必要がある。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・貸出だけでなく各種イベントも実施。 ・若年層の読書のきっかけとなる取組み。 ・利用者増のため新刊購入、事業を継続実施。 ・町外の方の利用もしやすく運営してほしい。									
					図書・AV貸出人数	人	16,266	17,915											事業費	国県支出金	千円			起債	千円		
21	鏡石駅伝・ロードレース大会	唱歌「牧場の朝」のまち鏡石で、「走る」ことにより、健康づくりを推進し、体力の維持向上を目指し、町民が気軽に参加できる大会とするとともに、広く参加者を求め親睦を深めるため実施する。	実行委員会を設置し、鳥見山陸上競技場において、駅伝競走の部及びロードレースの部18部門の大会を開催する。	実績成果	ロードレースの部参加者	人	1789	1720	4	4	3	3	14	A	(A)	平成26年度から町内小学校の学校行事として小学生全員参加となり、参加者が大幅増となっている。 平成29年度から駅伝部門に3名で参加できる新部門を新設するなど、参加しやすい大会作りを行っている。 今後も運営方法の改善を図りながらスムーズで効率的な実施に努める。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・駅伝部門を大会の目玉とするなど他にない特色。 ・小学生の全員参加は大変よい。 ・鏡石町を県内外に知らしめる働き。 ・町内外の参加者増加に工夫すること。									
					駅伝の部参加チーム数	チーム	50	54											駅伝の部参加者	人	216	238	国県支出金	千円			起債
22	子ども会対抗親善スポーツ大会	町内における子ども会育成会相互の連絡調整を密にすることにより、子どもの健全育成についての共通理解を深め、あわせて家庭教育並びに社会教育(青少年教育)の振興に資する。	子ども会育成会連絡協議会と連携し次の事業を行う。 ・子ども会対抗親善球技大会 7月29日(日) ・小学生男子(フットサル) 16チーム118名参加 ・小学生女子(ドッジボール) 6チーム53名参加 ※H30年度からミニバスケットボールをドッジボールに変更	実績成果	球技大会参加者	人	159	171	4	3	3	3	13	B	(B)	本事業は子ども会の中心的事業として実施されてきたが、少子化により子ども会会員数が減少し、単位子ども会自体が成り立たないなど事業運営に大きく影響している。 しかし、本事業は子どもの健全育成を図るばかりではなく、親同士の連携や地域づくりにも有効なものであることから、種目を工夫するなど柔軟な対応により実施する。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・地区活動の重要な行事。 ・地域の一員として親子で参加できるようにしてはどうか。 ・子どもの健全育成が目的であることが保護者に伝わるとよい。									
					球技大会参加チーム	チーム	21	22											国県支出金	千円			起債	千円			その他

平成30年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は平成29年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見
				区 分	単 位	H29年 度実績	H30年 度実績	必要 性	有効 性	効率 性	達成 度	合計 点	評価	判定説明・考察		
23	総合型地域スポーツクラブ支援事業(NPO法人かがみいしスポーツクラブ)	あらゆる年代の町民が個々のライフスタイルに応じて気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備し、健康の維持・増進を目指す。さらに、スポーツの一層の振興と普及を図ることで、青少年の健全育成や地域コミュニティの再生、豊かな高齢化社会の実現など、活力ある地域社会の確立に資することを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール活動(12団体) ・サークル活動(16種目) ・各種教室「きつず運動遊び」、「折り紙教室」などの文化的な講座、「大人の座学」を開講 ・コミュニケーション促進事業(5事業76回)大人の山歩きのらくら など会員相互の交流を図る。 ・理事会(13回) 	会 員 数 人		667	639	4 (4)	4 (4)	4 (4)	3 (3)	15 (15)	A (A)	町民の健康増進や青少年の健全育成などに大きく寄与していると考えられる。平成24年度には、NPO法人として、活動の幅も広がったことにより、今後もスポーツ振興に寄与できる活動や自立に向けた組織体制づくりなどを進める必要がある。 また、toto助成金削減、打切りによる財源確保について、スポーツクラブと共に検討していく必要がある。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の評価は継続。 ・他地域にない活動が盛ん。 ・町民の健康維持増進、青少年健全育成に寄与。 ・多くの町民が参加できるメニューや広く理解を得られるような内容とするの必要あり。 ・財源の確保を検討する必要あり。
				教室・イベント 回		16	38									
				・スポーツ教室の開催:「ジュニアスポーツ教室」「からだ目覚めるヨガ教室」、「ふれあいバドミントン」等のサークル活動												
				・ボランティア活動、町事業への協力												
				国 庫 支 出 金 千 円												
				起 債 千 円												
そ の 他 千 円																
一 般 千 円		4,400	2,400													
合 計 千 円		4,400	2,400													